

## モーダルシフトに関わるJR貨物の主な取り組みについて

平成17年2月17日

2月16日に、二酸化炭素など温暖化ガスの排出削減を義務付ける「地球温暖化防止・京都議定書」が発効しました。

これを受けて、環境負荷の小さい輸送手段である鉄道輸送への期待はさらに高まっていくものと考えられます。当社はモーダルシフトの担い手として、その特性分野である中長距離輸送において基幹的な役割が果たせるよう取り組みを強化してまいります。

### 1. これまでの主な取り組み

#### (1)ダイヤ改正（平成15年10月、平成16年3月）

新駅の開業 神戸貨物ターミナル駅（着発線荷役駅（E&S）全国で26番目）  
鹿児島貨物ターミナル駅

コンテナ列車の速達化と翌日配送体制の拡大

- ・東京～大阪間に日本ではじめて特急コンテナ電車列車の営業運転（スーパーレールカーゴ：約6時間）
- ・札幌～東京間で初めて17時間を切る列車の運転（改正前の最速の運転時間：17時間26分）
- ・東京～鹿児島間に直通で初めて25時間台の列車の運転（改正前の最速の運転時間：26時間44分）

#### (2)大型コンテナ輸送ネットワークの整備

大型コンテナの取扱可能な大型荷役機械の配備駅を39駅から49駅へ拡大

#### (3)平成16年度の機関車・貨車・コンテナの新製

機関車	14両
貨車	229両
コンテナ	7,000個

#### (4)山陽線貨物輸送力増強事業

コンテナ貨物列車の長編成化（1300トンけん引）への対応の輸送力増強を図るため、国からの助成を受けて平成14年度から18年度末までに「変電所設備増強」「待避線延伸」の工事を行い、年間で約25万トンの鉄道コンテナ輸送力増強を図ることによって、約11,000トンのCO<sub>2</sub>を削減します。

#### (5)国土交通省の「環境負荷の小さい物流体系の構築を目指す実証実験」

平成14年度から、鉄道・海運へのモーダルシフト等により、環境負荷低減の効果が認められるものについて支援する制度が設けられました。

平成14年度の認定 4件 CO<sub>2</sub>削減量 約18,700トン

・主な認定件名：スーパーレールカーゴ（佐川急便様）

平成15年度の認定 30件 CO<sub>2</sub>削減量 約30,300トン

・主な認定件名：31ftコンテナによる輸送（キヤノン様）

平成16年度の認定 22件 CO<sub>2</sub>削減量 約21,300トン

・主な認定件名：ラックコンテナによる国際一貫輸送（三菱電機様）

#### (6) 社団法人全国通運連盟との取り組み

鉄道コンテナ利用キャンペーン

鉄道コンテナ輸送の利点などについて、各種イベントなどにより年間を通して広くアピールし、輸送サービスの利用促進を図っています。

私有大型高規格コンテナ導入促進助成制度

31ftウィングコンテナ等の大型コンテナ利用ネットワークの構築を促進するため、会員各社へ20、30、31ftコンテナ、トレーラの導入に伴う資金の一部が助成されます。

・平成16年度認定件数      コンテナ                      6社    160個

   車両導入                      7社     34台

   車両改造                      2社      6台

・効果                              鉄道シフト量                  約18万トン/年

   CO<sub>2</sub>削減量                      約22,000トン/年

## 2. 今後の主な取り組み

### (1) ダイヤ改正（平成17年3月）

- コンテナ列車の増発・長編成化の拡大
- ・会社発足後最大のコンテナ輸送量の見込み
- コンテナ列車の速達化と翌日配送体制の拡大

### (2) 大型コンテナ輸送ネットワークの整備

- 大型コンテナの取扱可能な大型荷役機械の配備駅を49駅から52駅へ拡大

### (3) 平成17年度の機関車・貨車・コンテナの新製

機関車	26両
貨車	100両
コンテナ	4,000個は発注済、追加発注検討中

### (4) 「IT-FRENS & TRACE システム」の全面稼働

- ・平成17年8月までに全面稼働の予定
- ・輸送力の有効活用

### (5) 国土交通省の「グリーン物流パートナーシップ会議」への積極的な参画

### (6) 着発線荷役駅（E & S）の整備・・鳥栖駅（平成18年3月：全国で27番目）

- ・九州新幹線（博多～船小屋間）の建設に伴う整備